

## 検証の振り返り（意見・感想等）

- ◎ この資料は、事前に寄せられた主な意見・感想等を答申書の「4 今後の課題」の視点ごとにまとめたものです。

**《答申書から抜粋》**

## (1) 検証の方法

今回の検証は、議会及び行政が自己検証した結果に基づき、検証の視点から委員が意見を述べる形式により実施しました。

しかし、「市民」については、期間的な制約から自治基本条例の理念の浸透度などを確認することができませんでした。

今後の検証の際には、市民・議会・行政のそれぞれの視点から十分な検証が行えるよう、十分な期間を確保するとともに検証の方法を事前に定めるなど計画的に実施することが必要です。

## ● 今後の具体的な検証方法について（各委員からの主な意見）

- ・ 自治基本条例、住民投票条例及び市民参画条例が施行された後の初めての検証であったことから、段取りが十分に検討されていなかった。
- ・ 実施手順・ルールをあらかじめ定めておく必要がある。
- ・ 経験不足と時間の制約が検証の妨げとなった。次回はもう少し早く検証作業を開始する必要がある。
- ・ 審議事項について、委員の見解や要望を事前に集約し、議論するべきである。
- ・ 議会及び行政の内部検証結果を審議会において再評価したことは良かった。しかしながら、議会及び行政が十分に時間をかけて検証したとは言いがたい実情がある。
- ・ 市民についての検証は、ほとんどなされなかった。
- ・ 答申案については、市民にパブリックコメントを求めることも必要ではないか。
- ・ 検証については、専門性が求められるため、審議会とは別途に、検証委員会を立ち上げることも考えてはどうか。

### 《答申書から抜粋》

#### (2) 参画と協働のまちづくりの推進を図るための体制

自治基本条例の趣旨に沿った運用を図っていくには、議会・行政が参画と協働について理解を深める必要があります。

また、市民においても参画と協働のまちづくりについて、責務を果たしていくことが求められています。

議会・行政で参画と協働に関する研究、研修などを実施していくことなどの対策を行うとともに、本審議会において、参画と協働のまちづくりの推進について継続して審議していく必要があります。

#### ● 参画と協働のまちづくりの推進を図るための体制について（各委員からの主な意見）

- ・ 市民・行政・議会の三者による常設のまちづくりの組織を構築し、いつでも市民からの提言・相談等を議論できる場所として日々変化する地域のニーズを把握し、課題を顕在化する。今回行われた検証項目を中心に、その組織が把握した課題などから適切に検証項目を決定することとしてはどうか。

車に例えると、当審議会の役割はエンジンをコントロールするコンピューター（ディストリビューター）である。日常の活動を通じてまちづくりを進めるエンジンが地域自治組織であり、ハンドルを握っているのが議会・行政である。市民は、コントロールされた安心安全な環境（自動車内）で日常生活を送り、日常生活における課題等を前述のまちづくりの組織に提言・相談・議論を行うとともに直接的な立場でまちづくりにも参加するものである。

- ・ 審議会の公式な会合のほか、報酬無しの非公式のものも含めて、多様な取組をすべきではないか。
- ・ 審議委員を主体にした進め方が必要である。
- ・ 今後4年間に行う項目と、その全体スケジュールを明確にする必要がある。
- ・ 他の自治体における審議会で、参考になる内容があれば知りたい。

## 《答申書から抜粋》

### (3) 市民への周知

行政は、自治基本条例の制定後、自治基本条例の理念や参画手続などを広報紙やホームページに掲載することなどにより、周知活動を行っていますが、検証の結果で述べたとおり、市民の認知度は高いとは言えません。

市民主体の自治を推進するためには、多くの市民に自治基本条例の理念や参画手続などが浸透していることが不可欠です。

このため、自治基本条例の理念や参画手続などが広く市民に認知されるよう、参画と協働に関するホームページを分かりやすく改めるなど、市民に対する各種の情報伝達手段について更なる工夫を凝らして、周知に努めていく必要があります。

### ● 市民への周知について（各委員からの主な意見）

- ・ 参画と協働を具現化するようなイメージを市民に与えられる審議会を進めることが、市民の参画と協働のまちづくりに参加する意識を向上させるきっかけとなる。
- ・ 参画と協働がどこまで進んでいるのか、それを妨げているものがあるとするればそれは何なのかといった議論及び検証は、ほとんどなされなかったのではないか。
- ・ 自治基本条例に規定する自治のあり方に関する検証であるので、広く市民の見解を取り入れる努力が必要である。そのために検証の途中経過の開示を含め、情報公開を徹底し、アンケートやパブリックコメントの随時実施による民意の吸い上げが必要ではないか。
- ・ 審議経過を市民に知らせるだけでなく、問題を共有できる工夫が必要である。